

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和元年5月25日現在

今月の重点活動

■ほうれんそう 調製作業の省力化に向けて

ほうれんそう生産においては、下葉とりなどの調製作業の労働負担が産地の課題となっている。

今回、少ない人数で効率的に調製作業をする方法がないか検討するために、関係機関と昨年秋に販売が始まった新型軟弱野菜調製機を導入した生産者の調製作業場を調査した。導入した生産者は、旧モデルを含めて軟弱野菜調製機3台と包装機2台導入し、9名でスピーディーに調製作業を進めていたが、機械導入による人数削減や省力化効果を明らかにしていく必要がある。

農業普及課では、関係機関と連携して新しい機械の導入なども視野に入れつつ、効率的に調製作業を行う方法の検討など新たな検討プロジェクトを立ち上げ、産地の課題解決に向けて取り組んでいく。



【ほうれんそう調製作業場の様子】

新たなブランドづくり

■スナップエンドウ 目揃え会を開催（吉城地域）

飛騨地域では数年前からスナップエンドウを各地域で栽培しており、他産地から出荷がない期間（5～6月）に出荷しているため安定した単価で取引されている。

5月21日、吉城蔬菜出荷組合露地部会豆部のスナップエンドウ目揃え会が開催され、生産者20名が出席した。

目揃え会では、収穫方法や箱詰め方法の確認等を行い、出荷規格の統一が図られた。また、農業普及課から今後の栽培管理について指導を行い、収量増加に向け追肥の徹底を図った。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、スナップエンドウの安定生産を支援していく。



【出荷規格を目揃えする生産者達】

■キク 飛騨菊現地研修会を開催！

飛騨地域ではキクの飛騨オリジナル品種「飛騨黄金」が栽培されており、現地研修会が5月24日に開催された。

農業普及課からは三本整枝、ネット上げ、温度管理、灌水管理、病虫害管理等について説明を行った。

本年は4～5月に起きた降霜の影響を受けた圃場が多く、特に露地圃場では枯死も起きている。

参加者からは、ハダニ類やカミキリムシ類の防除方法についての質問や、今後の高温対策をいかに考えていくかとの問題提起もされた。

農業普及課では、今後も安定生産、品質向上等に向けたJAひだ花卉出荷組合菊部会の取り組みを支援する。



【研修会の様子】

多様な担い手づくり

■担い手 岐阜県就農体感ツアー(高山市)を開催

ぎふアグリチャレンジ支援センターでは、5月14日(火)に岐阜県就農体感ツアーを開催し、関東方面から夏秋トマト就農希望者の夫婦が参加した。

これは、広く高山市内の農業や暮らし、農業者との交流を体感することで、市内での就農イメージを描いてもらう事により就農移住につなげ、人口増加及び農業の発展に寄与することを目的としている。市内トマト新規就農者、長期研修生、受入農家の視察を行い、住居や農地の確保、研修中や就農後の経営の在り方や生活などについて具体的に情報交換できた。

農業普及課では、関係機関と連携しながら就農希望者の面談～研修、就農後の経営安定まで、今後も継続して支援していく。



【熱心に話を聞く参加者】

■飛騨地域トマト研修所 5期生の4名が育苗と定植準備を着実に研修中

4月から受講を開始した5期生が、夏秋トマトの定植時期を迎えている。自ら接ぎ木・仮植した苗が順次生育することに対し深い興味を持ちながら、意欲的に日々の育苗管理に取り組んでいる。併せて5月末に予定されている定植にむけ準備を進めており、新しい栽培技術や管理作業に触れながら興味深く受講している。

農業普及課では、研修生の管理作業に立会うことにより研修生の理解度を確認するとともに、合理化や効率化を図るための助言を行っている。



【支柱の固定作業を技術支援】

売れるブランドづくり

■水稲 優良種子の安定生産を目指して

5月15日、丹生川採種生産組合では、田植え間近となり、組合役員、JA等関係機関とともに苗代調査を行った。

当組合では、岐阜県内のみで栽培されている品種「たかやまもち」「ひだほまれ」をはじめ、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」等の水稲種子生産を担っている。

当日は、すべての育苗ハウスを巡回し、苗の生育、病害等諸障害の有無、管理状況を確認し、田植え時期の検討を行った。一部に病害の発生は見られたものの、全体としては順調に生育していた。今後も定期的な管理指導や病害虫の発生状況等の情報提供を行い、優良種子の安定生産に向け各種支援を行っていく。



【各機関による育苗状況調査】

■果樹 飛驒おとめ栽培講習会を開催

4月25日、JAひだ果実出荷組合協議会は、組合員を対象に栽培講習会を開催し、約40名が参加した。

研修会では、農業普及課から岐阜県育成オリジナル品種「飛驒おとめ」に関する栽培方法について平成30年度に作成した「飛驒おとめ」栽培マニュアルに基づいて説明を行った。生産者からはマニュアルを参考に今年も多くの出荷をしたいという声が聞かれた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、生産者の技術向上を図ることで、「飛驒おとめ」の生産と産地振興を支援していく。



【研修会の様子】

■酒米生産者 作付け前に研修会を開催

古城酒米生産組合では、飛驒地域のオリジナル酒米品種である「ひだほまれ」の作付けを前に5月8日春季栽培研修会を開催した。当日は古城酒米生産組合の生産者の他に、同じく「ひだほまれ」を栽培する高原酒米組合の生産者も加わり熱心に受講していた。

農業普及課では、平成の30年間にわたる気象と「ひだほまれ」の調査データを基に移植の適期とその重要性を解説した。また、移植等の当面の作業について講演をおこない指導を行った。今後も巡回指導や現地検討会等により良質な酒米が生産できるよう指導を継続していく。



【研修会の様子】

■夏秋トマト 定植前研修会を開催

5月15日に清見荘川野菜出荷組合トマト部会では本格的な定植に向けて定植前研修会を開催した。

研修会では定植前の管理や農薬の使用方法等についての研修を行った。生産者は今後の定植に向けて熱心に話を聞き、今後の管理について質問をしていた。

農業普及課は関係機関と連携しながらさらなる栽培技術向上に向けて生産者を支援していく



【研修会の様子】

■夏秋トマト トマト前のスナップエンドウ導入

高山トマト部会青年部では、近年、管内でトマトの前作に栽培が増加しているスナップエンドウの視察研修を5月9日に行った。

トマトを収穫する前の収入に繋がることやハウスや支柱など同じ施設が活用できることなどを研修し、秋のスナップエンドウの栽培の取り組みについても紹介を行った。

青年部から「最後の苗の前にちょうど良いな」など興味を持ってもらう研修となった。

また、中山間農業研究所でトマト3Sシステムの試験概要についても説明を受け、若い生産者に情報提供を行った。



【研修会の様子】

■ G A P 第一回 G A P 地区リーダー会議の開催

飛騨蔬菜出荷組合はこれまでの農作物安全性の取り組みに加え、環境保全や労働安全を加味した「ひだ G A P」に取り組まれている。5月22日に G A P 地区リーダー会議が開催され、各地区における研修会や自己チェックおよび改善提案書の配布など本年度の取り組み方針や、今後の推進対策について検討が行われた。

ひだ G A P は岐阜県 G A P 確認制度管理基準に準拠しており、農業普及課として今後も管内生産者の G A P への理解が深まり、取組が広がるように支援を継続していく。



【研修会の様子】

■ 飛騨山之村寒干し大根 すずしろグループ定期総会

5月10日（金）に、飛騨市神岡町森茂公民館において、平成30年度すずしろグループ定期総会が開催された。当グループでは、昨年度、県の補助事業等を活用し、新パッケージやプロモーションビデオ等の作成、名古屋市栄にある岐阜県アンテナショップ「ジ・フーズ」にて、フェアの開催等を行い、奥飛騨山之村寒干し大根の P R を行った。

総会終了後には、生産者・関係者間で意見交換を行い、生産拡大に向けて課題になっていることや、販売促進のための今後活動等について、意見交換を行った。

農業普及課では、今後も、栽培技術の向上や販売促進のために、支援を行っていく。



【すずしろグループ定期総会の様子】

住みよい農村づくり

■ 鳥獣害対策 西洞地区でわな捕獲研修

農業普及課は5月13日高山市久々野町の西洞公民館でわな捕獲研修を実施した。西洞地区獣害防止柵管理策委員会（谷口昭委員長）は、地域住民の力で防護柵の設置や、わな猟を実施するなどして、地域ぐるみの捕獲体制を整備してきた。幸い当地区では事故はなかったが、全国的にはわなにかかった害獣の止めさし時の事故が増えている。そこで農業普及課では過去の事故事例と、その対策として、くくりわなの安全な運用方法および注意事項のチェックリストなどを提示し、事故を未然に防ぐよう注意を促した。地区内住民は、有害捕獲のためのわな捕獲免許は持っているが猟友会に入っていないため、猟師による具体的な捕獲方法の研修も受けた。また市役所による捕獲補助者の研修も受けた。地区内での止めさし時にイノシシがくくりわなを切った直後でもあり、実用的な安全対策は早速取り入れられることとなった。



【安全確保の具体的方法は】